



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
4/8 (月)	+ 900	▲ 5,300	▲ 4,400	国庫短期証券発行償還 (3M)	CP等買入 ▲ 500 国債補完供給 + 36,400		日：毎月勤労統計 (2月)
4/9 (火)	+ 1,000	▲ 3,000	▲ 2,000				
4/10 (水)	トン	▲ 25,000	▲ 25,000	国庫短期証券発行償還 (6M) 国債発行 (5年)			日：植田総裁、信託大会であいさつ ：国内企業物価指数 (3月) 米：CPI (3月)
4/11 (木)	トン	+ 5,000	+ 5,000				米：PPI (3月) 欧：ECB政策金利発表、記者会見
4/12 (金)	トン	▲ 11,000	▲ 11,000	国債発行 (20年) 源泉税揚げ			日：鉱工業生産 (2月) 米：ミシガン大学消費者マインド指数 (4月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、国債発行等により、前営業日対比1兆5,800億円減少の559兆6,100億円から始まった。その後、税・保険揚げ、国債発行、国債買入オペ等の要因により増減したが、5日は、557兆8,000億円 (速報) で越週となった。無担保コールON物加重平均金利は週初、0.077%から始まった。その後も取り手の調達意欲は底堅く、同金利は横ばいで推移した。

ターム物は1W~3M物を中心に0.10%~0.20%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、8日に毎月勤労統計 (2月) の公表、10日に植田日銀総裁のあいさつ (信託大会)、海外では10日に米CPI (3月) の公表、11日にECB政策金利の発表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.07 ~ 0.077
1M	0.07 ~ 0.20
2M	0.10 ~ 0.30
3M	0.10 ~ 0.30
6M	0.15 ~ 0.30

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.030 ~ 0.050
CP 3M	0.10 ~ 0.25

<レボ>

足許GC取引は週央まで+0.005%~+0.02%で推移。3m短国の入札があった3日は+0.06%近辺まで上昇し、以降も週末まで+0.04%~+0.07%のレンジで出合いが見られた。

SC取引は2年438~459回債、5年149~166回債、10年350~374回債、20年180~187回債、30年65~81回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約4,900億円で、週間償還額の約2,700億円を上回った。発行市場は、期明けの発行再開に伴い鉄鋼や石油業等の一部の銘柄で大型の発行が見られたものの、週を通して発行件数、発行量共に限定的であった。発行残高は先週末時点の19兆7,389億円から4月4日時点で21兆7,410億円に増加した。発行レートは、銘柄や期間等によりばらつきが見られ、0.10%台半ば~0.2%台での出合いが見られた。

来週の償還額は、約7,100億円となっている。発行市場は、事業法人を中心に期明けの発行再開が本格化し、活況なマーケットとなると思われる。発行レートは、引き続き、目線感の落ち着きどころを探る展開が見込まれる。26日に、CP等買入れオペが4,000億円でオフアーされる予定となっている。

<TDB>

3日の3M (1222回債) の入札は、最高落札利回り0.0134% (前回債0.0000%)、平均落札利回り0.0046% (前回債▲0.0145%) となった。

5日の3M (1223回債) の入札は、最高落札利回り0.0110% (前回債0.0134%)、平均落札利回り0.0047% (前回債0.0046%) となった。

来週は4月9日に6M、4月12日に3Mの入札が予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。